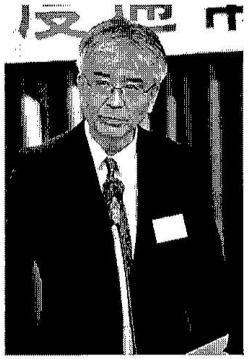
JEAS

会長代行に稲本氏

目的はシステム購入でない



稲本会長代行

日本万引防止システム協会（JEAS、戸田秀雄会長）は7日、東京都千代田区の主婦会館プラザエフで平成30年度通常総会を開催、その後、第2部として記念講演、第3部の意見交換会などを行い、総参加人数は約120人となった。

第一部の総会冒頭、三宅正光副会長が登壇して「本来なら戸田会長からごあいさつを申し上げるところですが、会長からお預かりしたあいさつ文を代読させていただきます」と述べた。

戸田会長のあいさつは以下、

平成29年の万引犯罪の状況は、我が国の刑法犯認知件数がピークの平成14年に比べ大幅に減少するなかで、万引犯罪の減少傾向は弱く、全刑法犯認知件数の11・8%で検挙者の3人に一人を占めるに至っております。

また犯罪特性として高齢者犯罪が少年を上回る社会的問題化や組織的万引による高額被害事案が増加などするなど、万引犯罪の複雑化、悪質化が目立ってきています。このような状況のなか、昨年度は3つのトピックスに力を注ぎました。

1点目は中小企業等経営強化法の経営力向上設備等に係る仕様等の証明書発行工業会として本年2月より本証明書の発行受付をスタートさせました。

2点目は3月のセキュリティーショー2018のセキュリティソリューションステージで世界No1のロスプリベンション（店舗の営業活動におけるロスに対するリスクマネージメント、つまり事後対策ではなくロスを事前に予防する）研究者であるフロリダ大学、リード・ヘイズ博士のセキュリティとロス対策における教科書的名著『Retail Security and Loss Prevention』の日本語版（翻訳＝近江元（エイジスリテイルサポート研究所㈱））発刊を記念して、その内容を基に万引対策に活かすための経営セミナーを実施しました。

3点目はEAS（Electronic Article Surveillance、万引防止システム＝商品窃盗が行われたときに警報音などで知らせるシステム。一方、心臓ペースメーカーが誤作動する事例が報告されていることから懸念する声もある）ステッカー・EAS導入店表示POP貼付に関するルールを経済産業省、厚生労働省、総務省、日本心臓ペースメーカー友の会、日本不整脈デバイス工業会に相談し、ガイドラインとして明確にしました。

冒頭申し上げた通り、組織犯罪による高額窃盗事案の増加は、安全・安心が脅かされると同時にその被害額大きさは小売業にとって極めて大きな経済的損失となり、企業経営として大変深刻な事態を招きます。

この甚大な損失の軽減のために当協会は万引防止システムの更なる普及促進とともに、集団窃盗団対策に有効な防犯カメラや画像認識システムの安全性の確立になお一層従事し、全国万引犯罪防止機構と連携を強め一体感のある防犯体制の充実に取り組みます。

続いて議案審議に入り、議長には三宅副会長が選出され、第1号議案＝平成29年度事業報告、収支決算の件、第2号議案＝年会費の対象事業の変更これらが承認された。

第3号議案＝平成30年度組織・人事の件では、会長代行＝稲本義範氏、事務局長＝田丸典億氏、顧問＝佐藤聖氏、福井昂氏、総務委員会委員長＝近江元氏が発表された。

第4号議案＝平成30年度事業計画、収支予算の件も承認され山根久和監事の閉会の辞で総会は幕となった。

その後、会長代行に就任した稲本氏は登壇して「後任として協会の屋台骨が傾かないよう、今、身が引き締まる思いである。今後の当協会の方針として、JEASの新活動宣言『お客様の目的は万引防止システムを購入することでは無い。お客様が求めているのは、お店の不明ロスを限りなく減少させることである。安全・安心・快適な環境のお店を作ることなどだ。その目的を達成させるための手段として法令に適ったシステムを購入されている。その期待にお応えするためにも当協会は現在の犯罪情勢、犯罪特性にマッチした新しい万引防止システムやサービスの開発、そしてその運用支援に力を注ぐべく、関係者の結束力を高めたい』この文面・ポリシーを会員の皆様と力を合わせていきたい」と述べた。